

これからのUDCBKについて
ー草津の都市デザインを考えるためにー



Santorini



Casares



Freudenberg

11/March/2017

立命館大学理工学部建築都市デザイン学科 教授
アーバンデザインセンターびわこ・くさつ センター長

及川清昭

研究内容紹介・及川清昭

立命館大学工学部建築都市デザイン学科・教授。1953年岩手県生。1976年東京大学建築学科卒業，設計事務所勤務を経て，1984年東京大学大学院修了。工学博士（東京大学）。東京大学生産技術研究所助手・特別研究員，東京大学大学院新領域創成科学研究科助教授を経て，2003年より現職。専門は建築・都市計画学。学校法人立命館キャンパス計画室・室長。現在，草津市空家等対策推進協議会・副会長，アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会委員・同センター長に就任。

(1) 建築・都市空間の数理的解析：空間特性を記述する数理的指標の開発，都市景観の定量的把握，移動経路と流動量の幾何学モデル，空間情報処理手法。

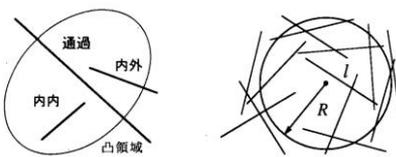
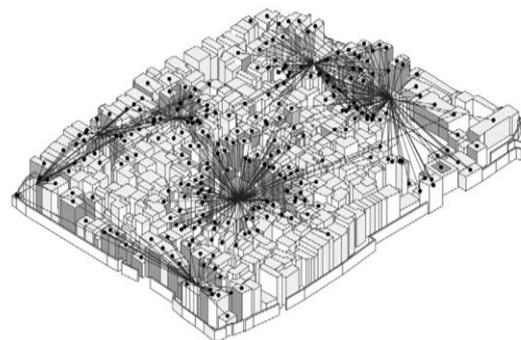


図1. 凸領域と経路パターン

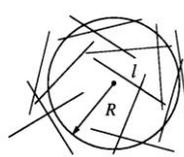
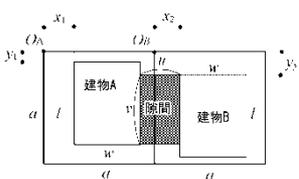


図2. 経路長が一定



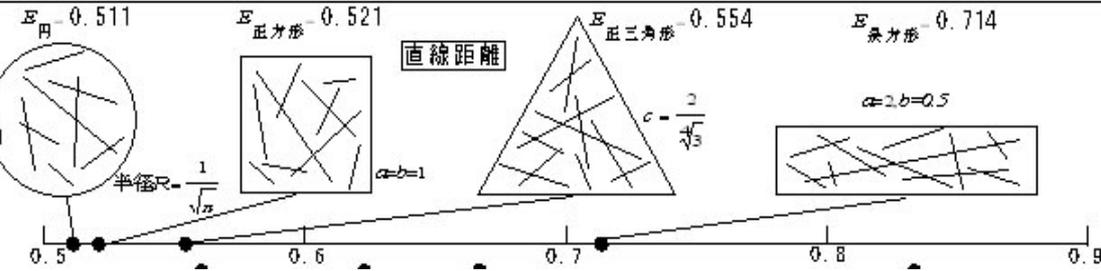
$$f_{\text{内内}} = 2\pi \int_0^a \int_{-b}^{a+b} \int_{-b}^{a+b} (t_2 - t_1)^2 dt_1 dt_2 dp = \frac{128\pi r^3}{45} \quad a = \sqrt{R^2 - p^2}$$

$$f_{\text{内外}} = 2\pi \int_0^{a+b} \int_{-b}^{a+b} \int_0^{a+b} 4(t_2 - a + b)(t_2 - t_1) dt_1 dt_2 dp = \frac{16\pi}{45} \left\{ \begin{array}{l} 15R^2 r^3 - 23r^3 - (2R^2 - 7R^2 r^2 - 3Rr^4) E \left[\frac{r}{R} \right] \\ + 2(R^3 - 4R^3 r^2 + 3Rr^4) K \left[\frac{r}{R} \right] \end{array} \right. \quad \begin{array}{l} b = \sqrt{r^2 - p^2} \\ K \left[\frac{r}{R} \right]: \text{第1種完全楕円積分} \\ E \left[\frac{r}{R} \right]: \text{第2種完全楕円積分} \end{array}$$

$$f_{\text{通過}} = 2\pi \int_0^{2a} \int_{-b}^{a+b} \int_0^{a+b} 2 \cdot 2b(t_2 - t_1) dt_1 dt_2 dp = \frac{8\pi}{3} \left\{ (R^3 - Rr^4) E \left[\frac{r}{R} \right] - (R^2 - r^2) \left\{ 2r^3 + R(R^2 - r^2) K \left[\frac{r}{R} \right] \right\} \right\}$$

$$f_{\text{Cr}} = f_{\text{内内}} + f_{\text{内外}} + f_{\text{通過}} = \frac{8\pi R}{45} \left\{ (11R^4 + 14R^2 r^2 - 9r^4) E \left[\frac{r}{R} \right] - (11R^4 - 14R^2 r^2 + 3r^4) K \left[\frac{r}{R} \right] \right\} \quad (\text{中心部 Cr 内の全流動量})$$

$$m_0 = \int_0^d \int_{l-a}^{2l-a} uv p_u p_v dudv = \frac{d^3(4l-a)}{9(a-w)^2}$$



(2) 世界の住居・集落・都市の調査解析 居住文化の特性に関する比較研究



Indonesia I
1990



Papua New Guinea
1991



Mexico
1992



Vietnam
2005



Laos
2009



Indonesia II
1993



Bolivia, Peru, Chile
1994



Morocco
1995



China
1996



Yemen
1997



Turkey
1997



China (Tibet)
1998

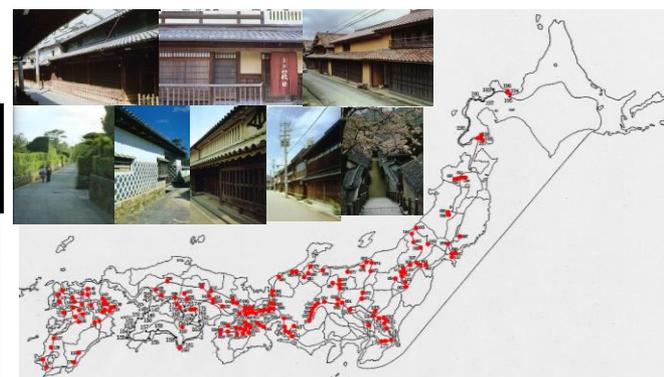


Cameroon, Mali
1999

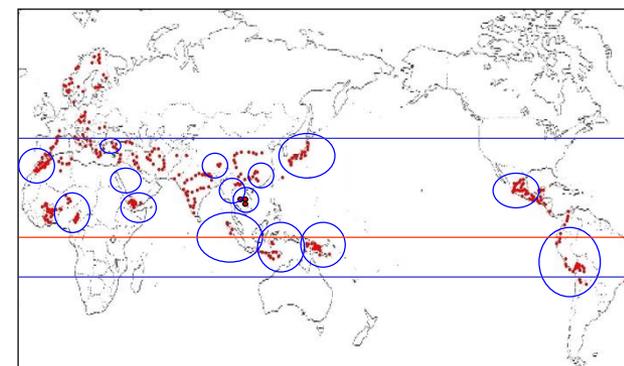


Syria
2000

① 日本の伝統的街並みの調査 ＜1980～1982；約150箇所＞



② 海外の伝統的住居の調査 ＜1990～2009年；約300箇所＞





IRIAN JAYA

世界遺産

THE WORLD HERITAGE

TBS



地球横断80,000km!
驚き! 世界のヘンな家めぐり

日本テレビ (読売テレビ) 放映

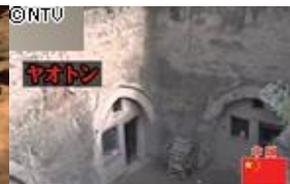
- ① 2007. 11月17日 (土)
- ② 2008. 8月 2日 (土)
- ③ 2010. 7月 3日 (土)



城壁都市シバム【及川清昭監修】
Old Walled City of Shibam
2006年05月21日



サナア旧市街【及川清昭 監修】
Old City of Sana'a
2006年11月26日

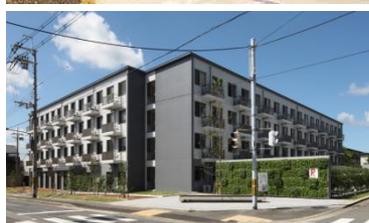


(3) 都市・建築空間計画の実践

建築・都市空間設計，まちづくり，中心市街地活性化，都市マスタープラン，施設配置，居住環境の計画手法



南米ポリピア実験住宅



吉祥寺エルビル



守山小学校・幼稚園・あまが池プラザ・親水公園

■草津市：タウン・マネージメント計画策定委員会，空家等対策推進協議会

■守山市：都市計画審議会，中心市街地活性化協議会・推進委員会，都市計画マスタープラン策定検討委員会，美しい景観づくり委員会，守山市総合計画審議会，守山市特定旅館建築審査会，セルバ守山にぎわい創出事業提案競技審査委員会，市庁舎のあり方検討委員会，市民運動公園再整備基本構想策定検討会議，守山中学校校舎改築審査委員，社会資本整備総合交付金評価委員会，浮気保育園園舎改築審査委員

■野洲市：都市計画審議会，野洲駅南口周辺整備構想検討委員会，野洲市地方創生加速化交付金事業実行委員会，野洲市民病院整備基本設計委託審査委員会

■長浜市：都市計画マスタープラン策定委員会，改定委員会，国土利用計画審議会，湖北広域行政事務センター施設整備計画検討会

■米原市：米原駅東口周辺まちづくり事業プロポーザル審査委員

■東近江市：中心市街地活性化基本計画策定委員会，八日市駅周辺地区での地域活性化のための基盤整備等検討委員

■高島市：高島市駅前広場再整備計画策定委員会，若者定住促進住宅地整備事業審査委員会

■滋賀県：都市計画審議会，開発審査会，建築審査会，都市計画区域・都市計画道路見直し指針検討専門委員会



草津の都市デザインを考えるために

I. まちづくりの主体の変遷

御上（官）によるトップダウンのまちづくりから、住民参加による環境形成の重要性、さらには、UDCBKの「民・産・公・学」の新たな連携へ。

II. 都市デザイン（アーバンデザイン）の変化

建築家などの専門家によるスケールの大きい都市設計から、歴史や風景など都市の個性を尊重し、住民の参加も得てデザインしてゆく手法への変化。ヒューマンスケールの修復型のまちづくりへ。

III. 都市デザインの具体的な手法

都市空間の美容整形術のためのデザイン手法。草津市の都市デザインに適用可能なものを探るために。

UDCBKは何をするところか UDCBK キックオフ・イベントより

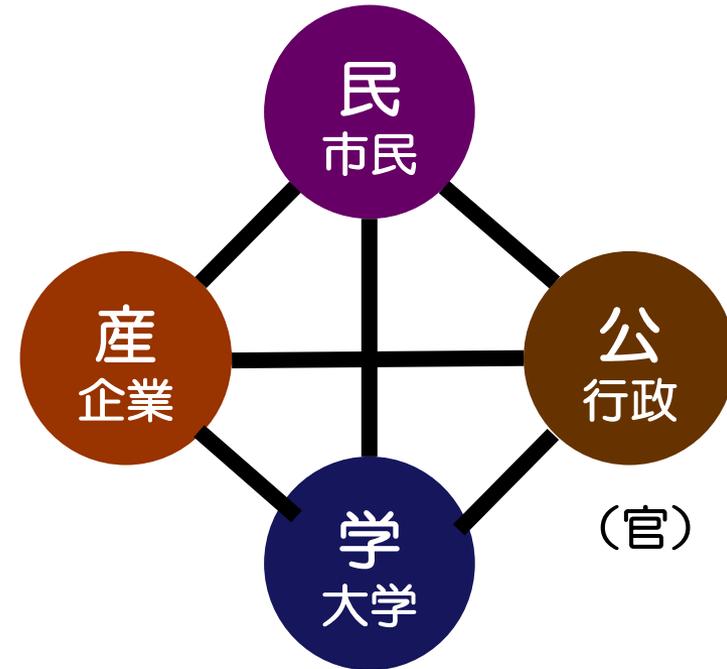
まちづくりの智慧を結集し、交流・展開するところ

草津市の複合化した都市課題に対して、【民・産・公・学】のそれぞれの立場で活動する個人や組織が、様々な場面で連携・協力・協働して解決に取り組む、そのコラボレーションを進めるための「プラットフォーム」の役割を果たす。

〔参考〕及川清昭；UDCBK（アーバンデザインセンターびわこ・くさつ）創設，
草津未来研究所ニュースレター第20号

UDCBKは

- ① 民・産・公・学の交流・学習の場
- ② まちの将来像を共有する場
- ③ まちづくり活動の実践・支援の場
- ④ まちづくり情報の集約・発信の場
- ⑤ まちのマネジメントの場

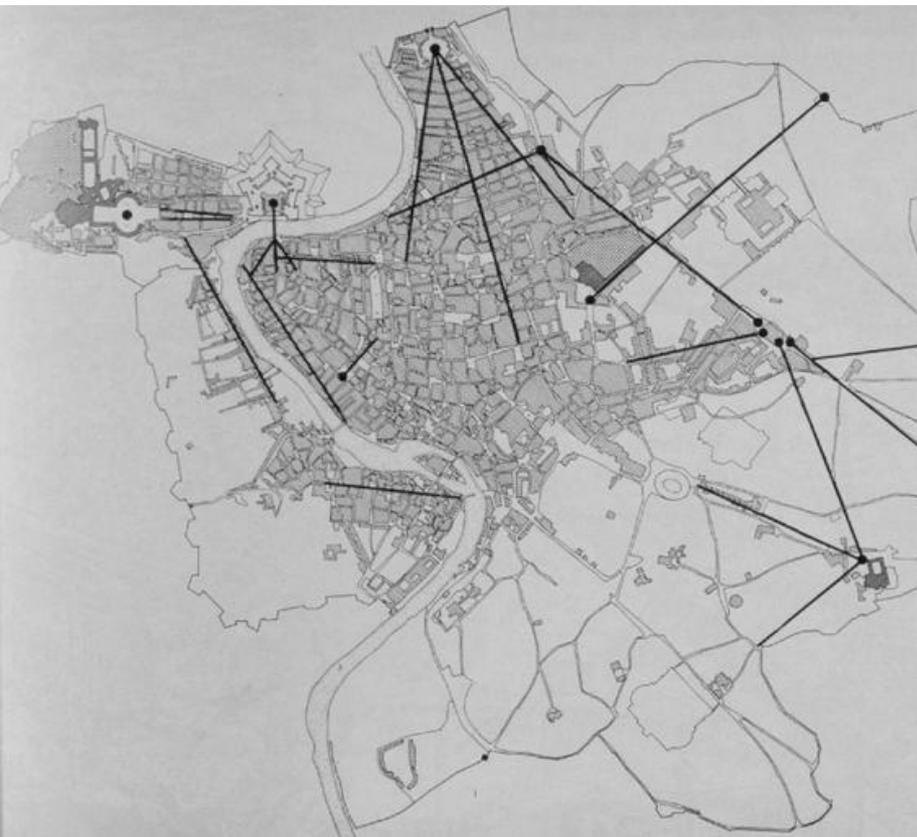


大学や専門家は、新たな技術や理論を積極的にまちに応用すると共に、長期的・客観的視点から見たコラボレーションの方向づけをする役割を担う。

I.まちづくりの主体の変遷

トップダウンのまちづくり ①ローマの改造

シクトゥスV世
Sixtus V (1521-90)



ルネサンス期のローマ法王シクトゥスV世(1521-90)がローマの都市計画を指揮し、大規模に改造。

- ①市内への門・教会・主要建物・広場などを拠点として、**放射状の直線路**を通し、視覚的に明確な軸線を作り出す(信徒がローマに容易に巡礼が出来るように)。
- ②要所にモニュメント(**オベリスク** , 円柱, 像)を配置。



サン・ピエトロ大聖堂前のオベリスク建立



ポポロ広場



トップダウンのまちづくり

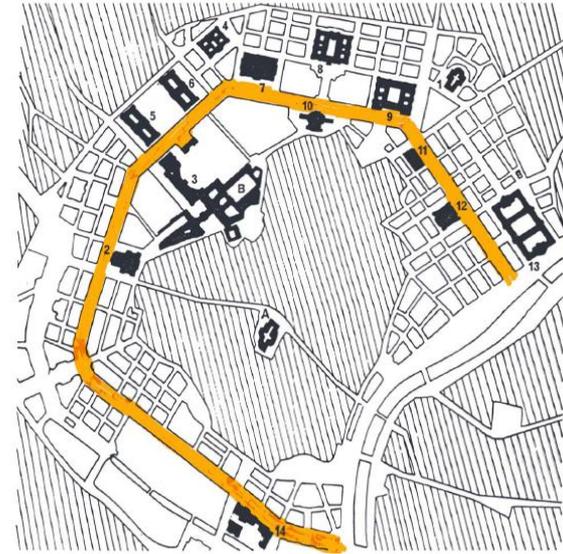
② ウィーンの都市改造



Franz Joseph I.
(1830-1916)

1857年のクリスマスに、ハプスブルク家が率いたオーストリア帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ I 世は、ウィーン都心部を囲んでいた市壁や周囲の空地（かつての軍事目的）を撤去することを発表した。

撤去した市壁や空地が都心部を囲む環状道路（リング・シュトラッセ、全長約4km、幅約57m）となった。リング・シュトラッセに沿って、国会議事堂、市庁舎、大学、歌劇場といったさまざまな公共の施設も次々に建設されていった。



トップダウンのまちづくり

③ パリの大改造



Georges-Eugène Haussmann
(1809- 1891)

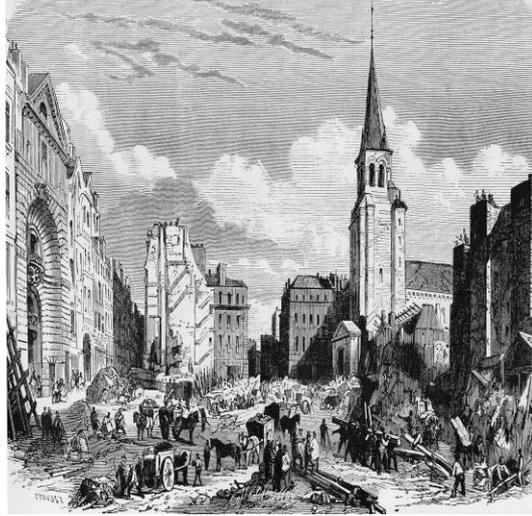
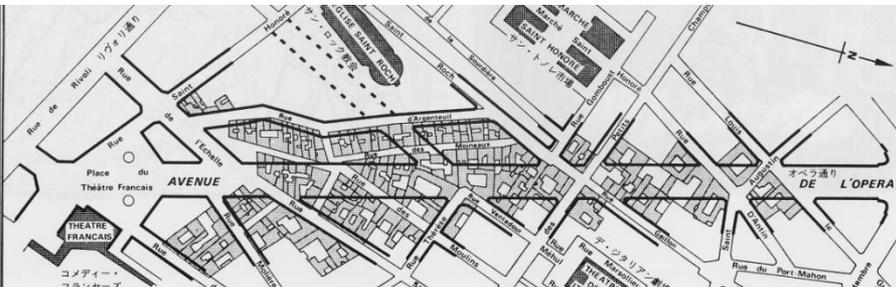


図 1155 オスマンによるパリの大工事図。黒線は新しい道路、斜線の部分はブローニュの森(左手)とヴァン二つの大きな郊外公園。

黒線が新しい道路，網点が新街区

19世紀ナポレオン三世の第二帝政期，セーヌ 県知事オスマンがパリを世界都市とするための1853年から17年間に渡る大改造。史上かつてない規模の都市大改造。パリの家屋の40%を取り壊し，密集市街地をクリアランスした。現在のパリの骨格はそのときに形成された。

見通しがきく並木を持つ直線 の広幅員道路（ブルヴァール），広場の挿入（インフラストラクチュア の整備，不動産価値を高める），シテ島に行政施設を集約，公園・緑地の効果的な配置，街路に沿う統一したファサード，…
都市の建設が経済活動と密接な関係を作り出していく（現在の再開発の仕組みに近い）



既存部分を強引にスタラップ・アンド・ビルド



都市計画・アーバンデザインの变化

オスマンによるパリ改造までは、実体・形態としての都市を対象として計画された。

建築＝都市計画



区切り

近代以降に現れる「都市計画」と「建築」の分裂

分裂のきっかけのひとつは、イギリスの生物学者 P. ゲデス(1854～1932)。彼は都市の人口、雇用状況、生活状況を数量的に調査分析し、計画に結びつけるという「科学的都市計画技術」の分野を開いた。

都市計画は、全世界的現象である急激な人口の都市集中、混乱などに起因する問題を解決することが主題となった。

都市計画の分野においては、都市の形態的、空間的側面、すなわち都市デザインは二義的に扱われるようになった。

近代建築の終焉

プルーイト・アイゴー (Pruitt-Igoe) 団地の解体



ミノル・ヤマサキ設計。1950年代に、セントルイスの伝統的なロウハウスをスラムクリアランスし、11階建て33棟のアパートを建設。密度は再開発前と同じで、駐車場・オープンスペースを設ける。多くの建築雑誌で賞賛。アメリカ建築協会賞受賞。



ところが、**住民たちは新たな環境を忌避し、犯罪が横行**。1972年に市当局によって**ダイナマイト解体**された。

周囲のロウハウスが建ち並ぶ伝統的なグリッド状の街区との関係が全くなく、視覚的にも社会的にも住民が望むコミュニティの連続性が失われたことが指摘される。

自治体や都市計画家、建築家、メディアなどの**専門分野の価値観が、住民の要求と無関係に環境を改変した結果**といわれ、住民の意見を反映した計画の必要性、すなわち、**ユーザー（住民）参加による環境形成の重要性**が唱えられる。



c.f. ミノルヤマサキ設計
9.11テロによるワールドトレードセンタービルの倒壊



《参考》 住民参加のための理論的背景

対話型都市計画理論

ユンゲル・ハーバーマス Jürgen Habermas, 1929-, ドイツ生まれの社会学者。対話的合理性（communicative rationality）を提唱。政治的公共性と対話的合理性をもとに、都市計画を「目的達成型」から、「諒解達成型」の価値転換を都市計画にもたらすこと。社会の構成員を、公的主体を含めて多様な利害団体・主体の集合体と捉え、それら**主体の対話を通じて計画の総合性・合理性が高まる**ことを期待する。

コミュニケイティブ プランニング Communicative Planning

ジュディス・イネス（Judith Innes）が提案。多様な人々それぞれが議論し、皆が納得するところでの合意点を見つける行為そのものが、最も大切な計画行為であるとする考え。それぞれの主体が政治圧力等の制約にさらされることなく自らの考えを発言し、**じっくり話し合っこそ真の計画づくりは可能とする理論**。英・米・北欧において最新の都市計画理論のひとつ。

アドボカシー プランニング Advocacy Planning (equity planning)

1960年代にポール・ダビドフにより提唱された計画理念。公聴会など単純な参加プロセスによる都市計画は単なる「決定」に陥っていると批判。公的な計画の策定過程では、多元的価値観の観点から**個々の団体・主体が各々の立場で計画を提案することにより、政治的議論が活性化し、結果的に計画の合理性と公共性を高める**と指摘した。また、広義に定義される『公共の利益』のためではなく、主流の都市計画過程から排除されがちな社会的弱者の権利を要求するため、**貧困層やマイノリティなどの住民の地域組織とプランナーが共同する**という形で対案による計画作りと政府に対する働きかけが重要であるとする考えである。弱い立場の人、あるいは、特定の立場を擁護する。

コラボレイティブ プランニング (Collaborative Planning)

Healeyのコラボレーション論は、**誰かが誰かを指導したり強制するのではなく、同じ土俵の上で力を合わせる**ことが重要とする理論。都市計画に摩擦はつきものであり、プランナーの効果的な摩擦解決方法の一つ。コンフリクト・レゾリューションやコンセンサス・ビルディングの理論、方法（意見合致、合意形成）を取り入れたものになっている。

※もっと色々な理論があります。

住民参加の例；ワークショップ

まちの良い点・悪い点の発見し、まちをよくする方向を議論

山・川などの自然環境や景観，田園風景
地域の歴史や伝統・祭り，コミュニティの親密さ
道路，下水道などの施設整備，公園，街路樹などの緑，清流，空気
教育環境，文教地区，気候・名産・史跡
交通・生活利便性，観光施設

狭い道路・交通渋滞，公共交通が不便
買い物や病院などが不便，コミュニティの崩壊・高齢化，防犯問題，非行
問題，道路・公園の整備
地元商店街の活性化，公共施設の充実，狭く危険な道路，河川改修で自然
が失われた生活道路
マンション建設，水質の悪化，
地域間交通の不便。



PPP（パブリックプライベートパートナーシップ）

官と民（産）がパートナーを組んで事業を行うという官民協力の形態。地方自治体で採用が広がる。

PPPは、たとえば水道やガス、交通など、従来地方自治体が公営で行ってきた事業に、民間事業者が事業の計画段階から参加して、設備は官が保有したまま、設備投資や運営を民間事業者に任せる民間委託などを含む手法である。

<参考>

PFIは、国や地方自治体が基本的な事業計画をつくり、資金やノウハウを提供する民間事業者を入札などで募る方法である。対して、PPPは、たとえば事業の企画段階から民間事業者が参加するなど、より幅広い範囲を民間に任せる手法である。

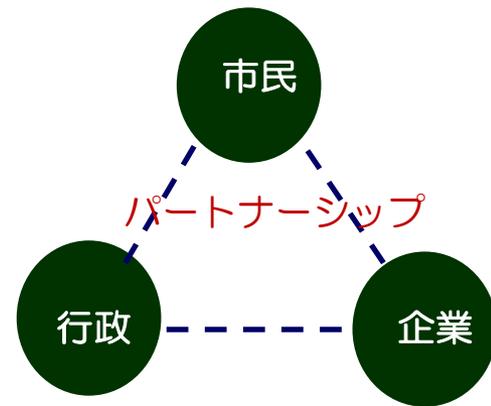
PI パブリック・インボルブメント

政策決定や公共事業の計画策定において、住民が意見を表明できる場を設けて、その意見を計画に反映させて行くこと。日本では道路施策の策定時にPIの思想が取り入れられたのを契機に徐々にまちづくりの分野へも広がりつつある。計画段階からプロジェクトの事業化段階、建設段階まで、行政の別組織・公共団体・関連団体・住民が参加。住民が望む自然環境の創造、まちづくりに向け、積極的な住民参加が求められている。

グラウンドワークトラスト

市民が行政や企業とパートナーシップをとりながら地域の環境改善活動を行う際、三者の仲介役となる専門組織をいう。グラウンドワーク発祥の地であるイギリスにおいても、日本においても、NPO法人がトラストの役割を担う。

■静岡県三島市における実施例；日本で初めてグラウンドワークの手法を取り入れた実施例。源兵衛川における水辺環境の再生・改善プロジェクト。水質・水辺環境の悪化を、市民が立ち上がり、親水施設の整備、生態系調査等環境アセスメントを実施。企業の使用済み冷却水の放流や市民による川の整備。



官・民・産の協働ではあるが、環境改善というプロジェクトベースでまちづくり全体の協働ではない

まちづくりの主体；UDCの「産学公民」連携の新規性

住民参加型のまちづくりから、行政参加型のまちづくりへ

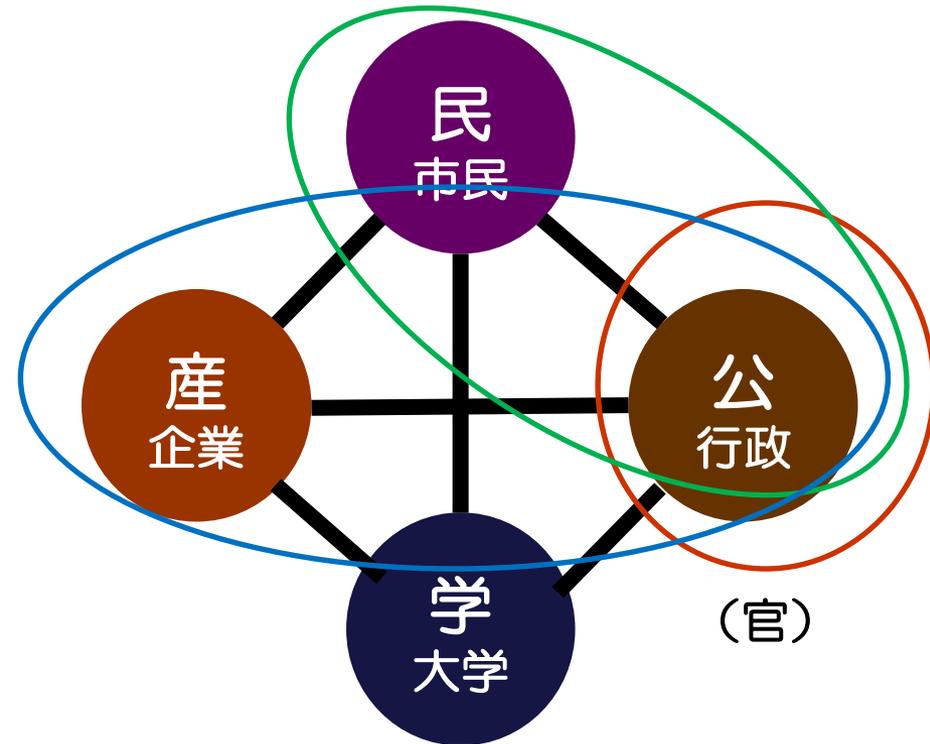
近年は、私たちの地域は私たちがつくるという地域主体のまちづくりが主流。
まちづくり・まち育ての潮流は、住民参加・市民主体の行政参加。これからは、逆に
市民のまちづくりに行政が参加する時代。
住民と行政と住民・民間・NPO・ボランティアの連携・パートナーシップ・コラボ
レーションによるまちづくり。

さらに

公（官）と民，公（官）と産の協働まちづくりは近年の動向であるが，産学
公民連携は最先端の連携形態。

⇒

UDCの動向と成果が注目される。



Ⅱ. 都市デザインの変化 【都市計画】から【まちづくり】へ

従来は「都市計画」という用語が一般的で、主体は行政、内容はハード（施設整備）、対象は市街地全体という概念が長い間支配してきた。

近年は「まちづくり」という用語が定着し、「都市計画」よりも広範に用いられている。

「まちづくり」というと、主体は「住民」、内容はソフト（生活支援、コミュニティ活性化等）、対象は近隣地域という認識が広まっている。

「都市計画」は漢字で、堅苦しく、専門的である印象を与えるのに対し、「まちづくり」は優しく、誰でも親しみやすい印象がある。「まちづくり」という用語が市民の間に浸透し、「まちづくり」への参加の機運が高まってきた。

ただし、「まちづくり」の分野が広範で曖昧、多様な概念である。しかし、逆にそれが活動内容の自由度が拡大し、参加する人々が増大したといえる。

	従来の都市計画	まちづくり
主 体	国・都道府県 市区町村 《行政》	市民団体・NPO・民間 ボランティア 《市民》
市民の活動形態	陳情・請願・反対運動	学習・提案
専門家	都市計画家 建築家 (ハード)	コーディネーター ファシリテーター (ソフト)
都市の将来像	成長・開発型都市	持続可能な都市
内 容	広域都市基盤整備 大規模開発	身近な住環境整備 既成市街地の修復型整備

都市空間の構成要素 アーバンデザインとコミュニティデザイン

都市空間は「**劇場**」に例えられる。演者とシナリオ、舞台の3要素。

ヒト

生活、社会、組織、コミュニケーション、…



モノ

建築、土木構築物、自然（山、川、海、樹木）、…



コト

イベント、出来事、歴史、記憶、ゆかり、物語、…



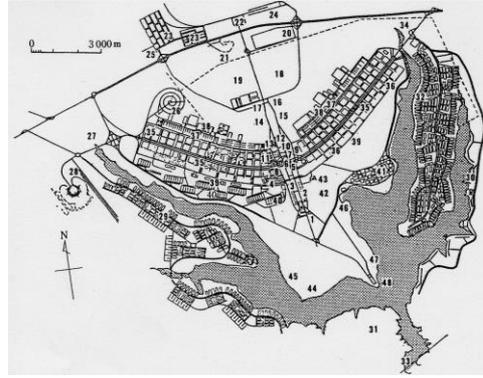
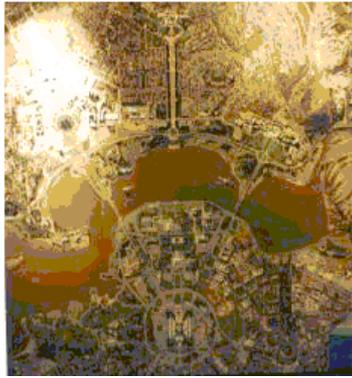
元来、**アーバンデザイン**（**都市設計**，**都市デザイン**）は、建築家・都市計画家などによる、建築群とオープンスペースの調和した空間デザイン、街並保全、形態規制、景観コントロール、市街地整備や都市開発の空間創出などの総合的なデザイン手法である。

近年、都市の種々の取組は「**まちづくり**」と総称されるが、法制度に基づく規制誘導を行政が行う「**都市計画**」と、空間・景観計画を担う「**アーバンデザイン**」〈主にモノ〉、地域や住民主体の社会活動を主とする「**コミュニティデザイン**」〈主にコト〉がある。

最近「コミュニティデザイン」を中心としてまちづくり活動は盛んではあるが、必ずしも地域の空間計画の具現化に発展しないものが多い。これは活動の中に具体的な空間のイメージ提案ができていないことに起因する。

都市デザインの変化 かつての都市デザイン

都市デザインとは何なのか。都市計画が容積率などの制度を中心に考えるのに対し、「モノの形や空間、視覚的な関係を軸に、都市を考え、魅力を増してゆく手法」である。こうした考え方が確立したのは50年代の米国といわれる。もっとも、さかのぼって考えると、既存の街にいくつも目抜き通りを造った19世紀パリの大改造や、20世紀の豪州の新首都・キャンベラ建設なども都市デザインといえた。



日本でも、高度経済成長期まではスケールの大きいものが主たる対象であった。建築家の丹下健三は61年、「東京計画1960」という未来都市像を発表した。これは東京湾の上に都市軸と呼ばれる巨大な構造物を延ばす計画だった。現実にも、大阪万博で未来都市的デザインが実現した。大阪・千里や東京・多摩などに、巨大なニュータウンも誕生した。

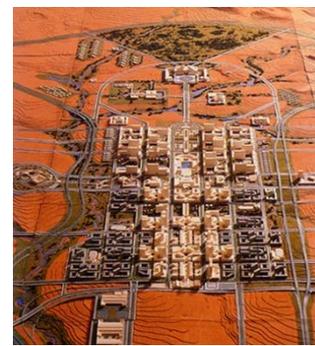
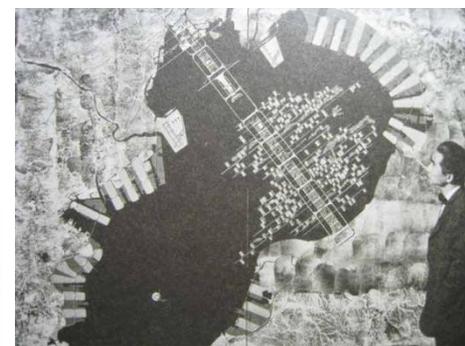


アーバンデザイン（都市デザイン）の変化 丹下健三

丹下 健三（1913 - 2005）

第二次世界大戦復興後から高度経済成長期にかけて、多くの国家プロジェクトを手がける。東京オリンピック、大阪万博、東京都庁など数多くの作品がある。「世界の丹下」と言われ、日本人建築家として、最も早く海外でも活躍。

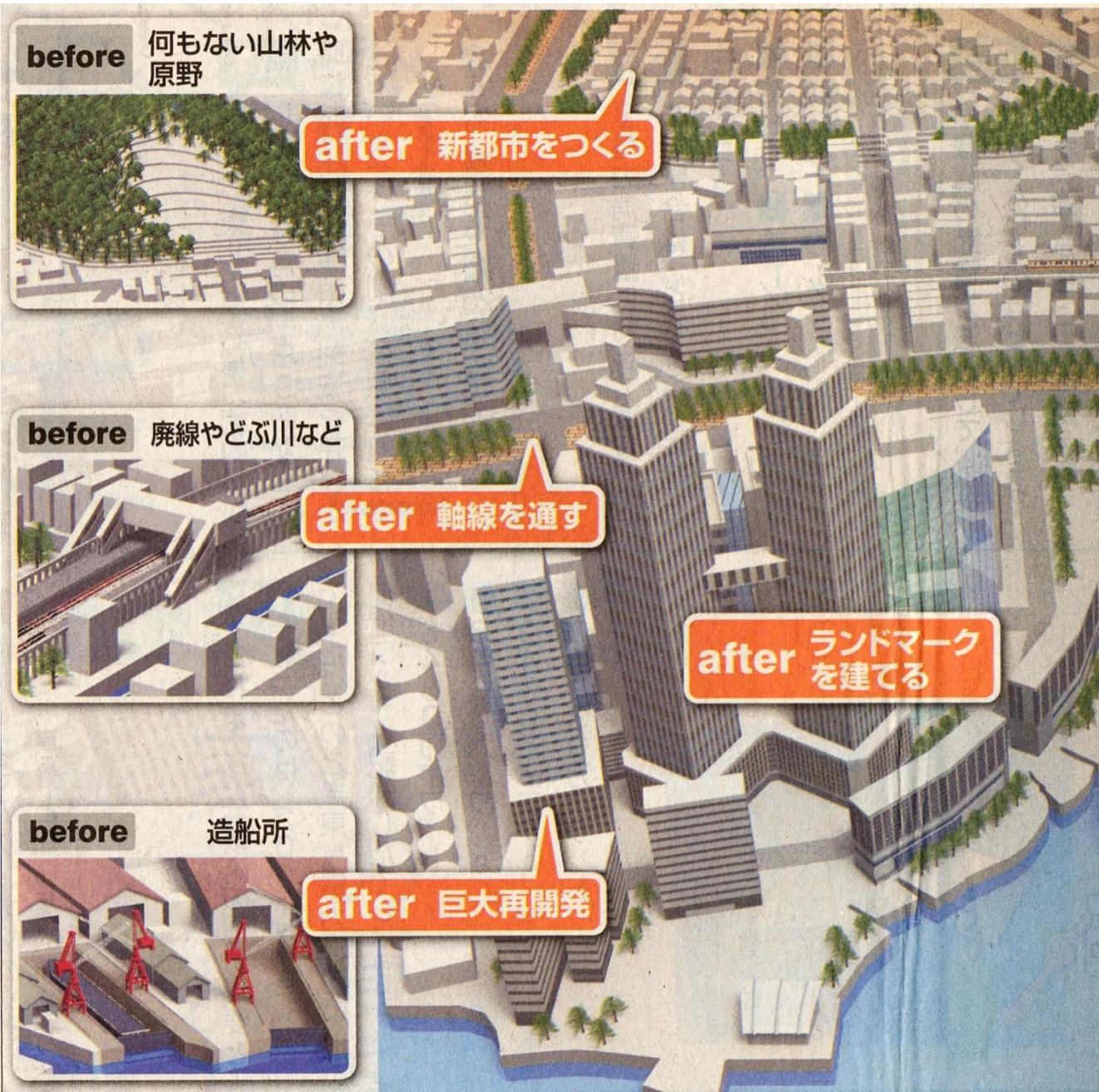
東京帝国大学大学院修了後、同大学建築科助教授に就任。**1963年**、**新設された東京大学工学部都市工学科**教授に就任（都市設計研究室、1997年より都市デザイン研究室に改称）。文化勲章授章。



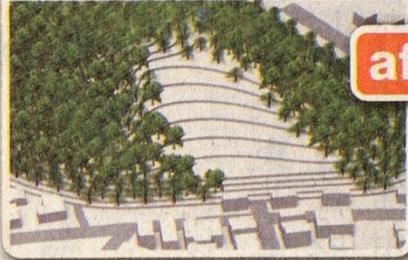
「都市の計画を直接人間の問題として、我々が毎日五感で感じとるような生活環境として実現していくために、つまり**都市環境のヒューマニゼーションのためのアーバンデザイン**、いわゆる都市設計が必要となる。建築がより都市的拡張を、また都市がより空間概念を豊かにしながら、**新しい人間的空間秩序を創造していくのが、アーバンデザイン**である。」

（丹下健三，1972）

かつての都市デザインのイメージ（高度成長期からバブル期まで）

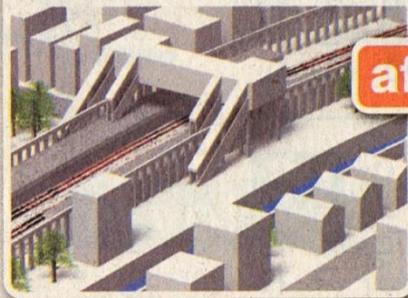


before 何もない山林や原野



after 新都市をつくる

before 廃線やどぶ川など



after 軸線を通す

before 造船所



after 巨大再開発

after ランドマークを建てる

都市デザインの変化 大規模開発から人間的なスケールへ

こうした流れはオイルショック後、景気後退や公害問題もあり、退潮していき、主流となるのが、“**歴史**や**風景**など都市の個性を尊重し、**住民**の参加も得て**デザイン**してゆく手法”である。

バブル期や近年の規制緩和などの場面では、**巨大開発型デザイン**も一時浮上した。しかし、2000年には経済協力開発機構(OECD)が日本に「**もっと都市デザインの質を高めよ**」と勧告した。これは、日本の規制が緩すぎて都市の魅力や競争力を損ねているという認識に立っている。
この半世紀、行きつ戻りつしながら、**大規模開発から人間的なスケールへ**という流れがある。

横浜の取り組みの先頭に立った故・田村明氏は、都市デザインを「**(都市全体を)個性的で美しい人間的なものにするための手法**」と定義した。

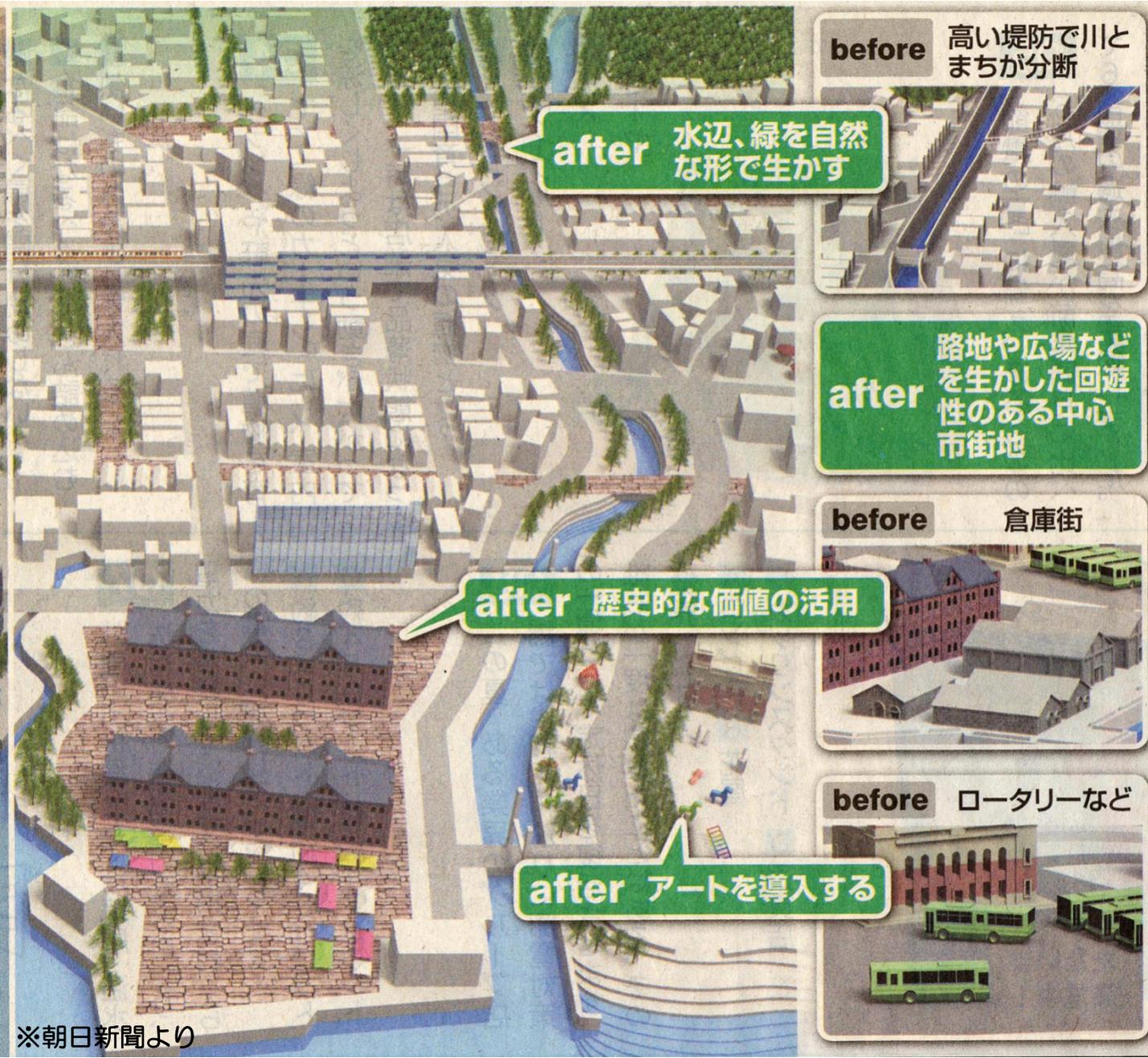


※横浜市のまちづくり

日本のまちづくりの先進地とされる **横浜市**が都市デザイン担当を置いたのが1971年である。

横浜市では、高速道路を地下化して緑の軸線を通したり、商店街を青空たっぷりのモールにしたり、郊外にニュータウンを造ったりした。
自治体の部署名や大学の学科、コース名としては定着している一方、普段はあまり意識されないが、実は私たちの身の回りの様々な所にあるのが「**都市デザイン**」である。

いまの都市デザインのイメージ (バブル期から二一世紀まで)



before 高い堤防で川とまちが分断

after 水辺、緑を自然な形で生かす

after 路地や広場などを生かした回遊性のある中心市街地

before 倉庫街

after 歴史的な価値の活用

before ロータリーなど

after アートを導入する

◆都市空間に対する市民の要求の変化

従来の都市空間に対する市民の要求は、上下水の整備・道路の拡充や舗装など、都市のインフラが主、すなわち、実用的な要求が中心であった。

近年は物的には充足してきており、景観やアメニティといった質的、審美的、情緒的なものに変化してきている。

心地よく、美しく、都市の文化度を高めるために、都市デザインという考え方がある。

※朝日新聞より

Ⅲ. 都市デザインの手法

半公共空間のデザイン

■公共空間 public space

<公的領域>で、公共施設、道路・公園・緑地・河川……

■私空間 private space

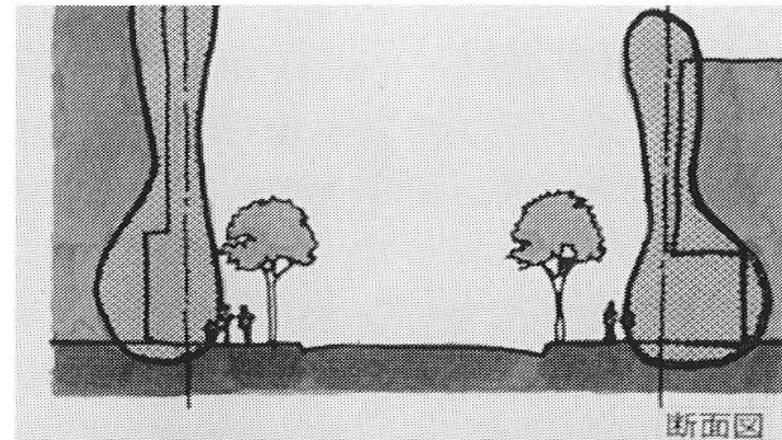
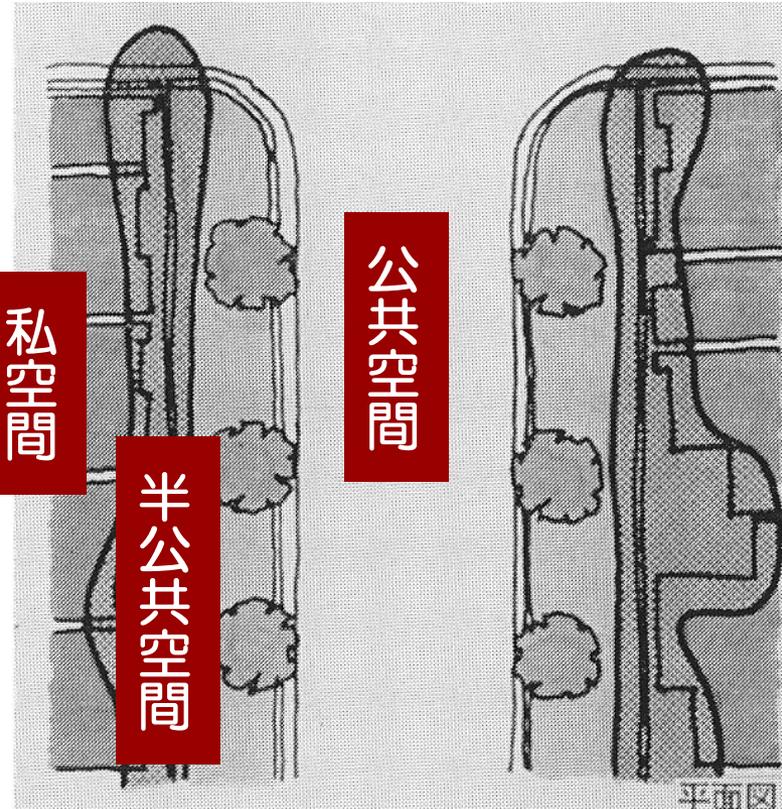
<私的領域>で、個人や事業者の敷地（建物・庭）、屋外駐車場……

●半公共空間（semi-public space）

建物のファサードや塀など、私空間が公共空間と接する部分。

西欧では私的領域ながら、街路などの公共空間から目に入る建物は公共的な財産という考えが定着している。

日本では自由な表現が文化であり、「個」を主張するあまり調和に欠けた都市空間が形成しているといわれる。



街路空間のデザイン

人間のための街路



ギリシア・ミコノス島



自由が丘・マリクレール通り

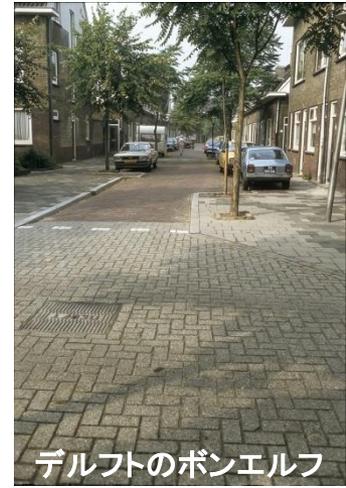


横浜・元町



丸の内・仲通り

歩車分離と歩車共存；ペデストリアンデッキとボンエルフ



デルフトのボンエルフ

■ **ボンエルフ**；『人と車の共存』を目的にした道路整備形態のひとつ。車路を一方通行にしてカーブあるいはジグザグにしたり、ハンプ（路上の凹凸），植栽，ストリートファニチュアを適当に配置して、人間が対応できる速度（約15km）以上に車がスピードを出せないようにコントロールした**人間優先**の道。



歩車分離；ペデストリアンデッキ

歩車共存；ボンエルフ（日本ではコミュニティ道路）

街路空間のデザイン；アーケード



ミラノの ガレリア

主軸293m, 幅14.6m, 高さ28.6m, 中央高さ48.8m, Giuseppe Mengoni, 1861年

パサージュ passage(仏)

パサージュとは、歩行者専用の道幅の狭い小道のこと。鉄骨とガラスでできたアーケードをもち、各種店舗が入ったものもある。19世紀前半に最先端のショッピング・エリアとして賑わった。

ポルティコ ポルティチ (複数形)

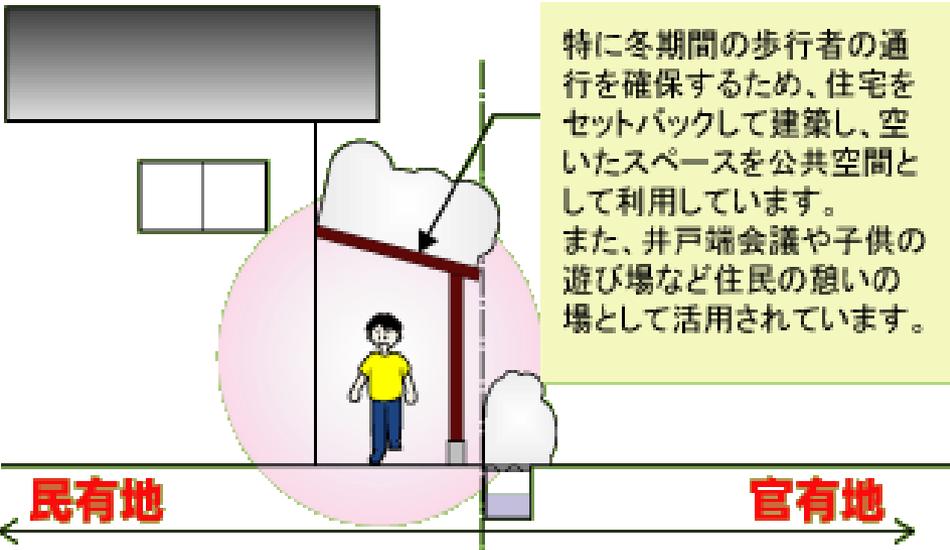


ポルティコとは、**柱廊玄関**、または単に**柱廊**の意味。全市の街路がポルティコ（アーケード）で覆われた歩行者空間をもつボローニャ（イタリア）の街。



雁木 がんぎ

日本版ポルティコ



雁木 とは、新潟や青森などの多雪地帯において民家の軒先から差し出された庇のことで、下を通路としたもの。



渋川駅前通り商店街；敷地境界に沿った土地を少しずつ出し合って、中庭空間をつくり出す。

原広司+アトリエファイ建築研究所



青森・黒石（こみせ通り）



モール

モールとは、本来「木陰の散歩道」を意味する。ショッピングモール(shopping mall)とは、遊歩道のある商店街のことで、単なる通路ではなく、車両の通行を禁じ、並木やベンチなどがあり、歩行者が快適に買い物を楽しめるための空間である。



ミュンヘン (オープンモール)



トロント・イートンセンター
(エンクローズドモール)



ニコレットモール (トランジットモール)

路地・小路・横丁



京都の路地



法善寺横丁



吉祥寺・ハーモノカ横丁



神楽坂の路地



コレド室町

ストリートファニチュア

ベンチなどの野外家具類をいうが、街灯・植栽台・信号・案内板・標識・キオスク、水飲み場・時計塔・バス停など、街路の構成要素である。



広場

良き都市の広場は、
良き市民を育てる



カンポ広場



スペイン広場

日本の伝統的都市には
広場がなかった。オー
グスタン・ベルクは
「空間の日本文化」で、
「日本の都市の場合、
西欧では広場で繰り広
げられる活動が、一般
に街路を舞台に行われ
る」点を指摘した。



マルクト広場



サンピエトロ広場

日本の空間文化でヨー
ロッパの広場に相当す
るのは、**大路**（おお
じ）や**寺社境内**、**景勝
地**、**河川敷**、**橋詰**など
であったとよくいわれ
る。



サンマルコ広場



カンピドリオ広場

駅前広場の例



複数の機能を積極的に融合させ、図書や活動を通して人とひとが会い、情報を共有・交換しながら、創造や交流を生み出し、地域社会の活性化を深められるような活動支援型の公共施設をめざしている。境南ふれあい広場公園（東京都武蔵野市）；図書館、生涯学習センター、市民活動センターなど。2016年日本建築学会学会賞。

六甲道駅南地区再開発事業区域の中央に位置する近隣公園。防災公園としての役割をはじめ、都市環境デザイン基準の導入や、住民参加の公園づくり手法の実践、国際コンペ案の実現化、地元住民による管理・運営組織づくり等の試みがみられる。

駅前広場の例



岩手県紫波町
オガール広場



民間テナント（飲食・物販・医療・教育系）と、町が運営する情報交流館（図書館・地域交流センター）で構成される『官民複合施設』。10年以上放置された駅前に、年間80万人が訪れる。町のシンボルとなる空間で、来街者を迎え入れる庭園ラウンジのような屋外空間。芝の広場・スタジオ・マウンド・あやとり道・まちのえぐねなど、様々な活動を促す要素で構成される。
「Gare（フランス語で駅）」+方言で【成長】を意味する【おがる】

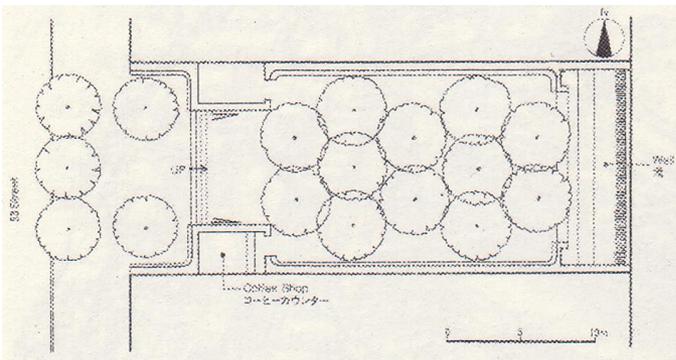
日向市駅交流広場 ひむかの杜



連続立体事業による新駅の前に、噴水とせせらぎ、芝生緑地をもった公園のような広場。木組みの「木もれ日ステージ」と併せて「交流広場」と呼ばれ、交通広場と一体で構想されながら、住民参加型ので創り出された。宮崎県日向市；駅舎、休憩所など。

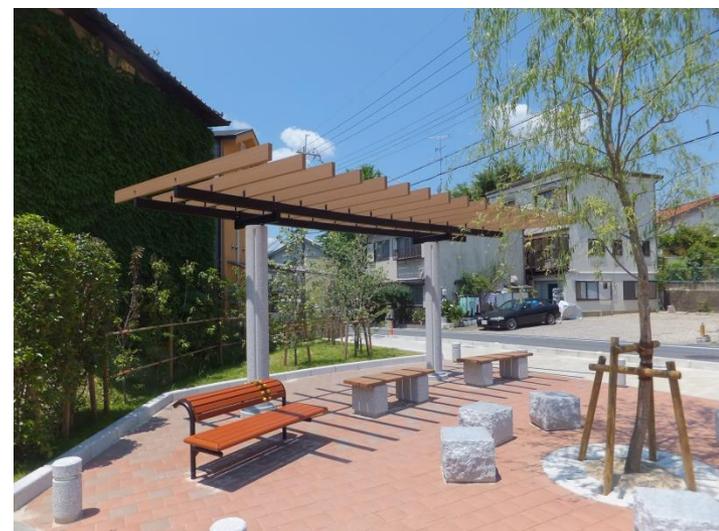
ポケットパーク pocket park, vest-pocket park

ポケットパーク道路わきや街区内の空き地などわずかの土地を利用した小さな公園。



Paley Park (ヴェストポケットパーク) (13 m× 30 m)
1967, ロバート・ザイオン他設計

高層建築の谷間の貴重な空間に、落水による光の変化と冷氣、騒音を消す心地好い水音、適切な環具や植栽の選定と配置が、休憩・語らい・読書等、快適な時間を提供している。



日本の、とあるポケットパーク

壁面緑化



パソナグループ本部ビル(大和呉服橋ビル)



名古屋市千種文化小劇場 (ちくさ座)



希望の壁, 大阪

最後に エリアマネジメントについて

近年、「エリアマネジメント」という、**住民・事業主・地権者等による自主的な取り組み**が各地で進められている。例えば、住宅地では、**建築協定を活用した良好な街並み景観の形成・維持**や、**広場や集会所等を共有する方々による管理組合の組織と、管理行為を手掛りとした良好なコミュニティづくり**といった取り組みがある。また、**業務・商業地では、市街地開発と連動した街並み景観の誘導、地域美化やイベントの開催・広報等の地域プロモーションの展開**といった取り組みもある。
 多くのセクターが参画し、**地域自ら行動することはUDCの基盤**となりうる。

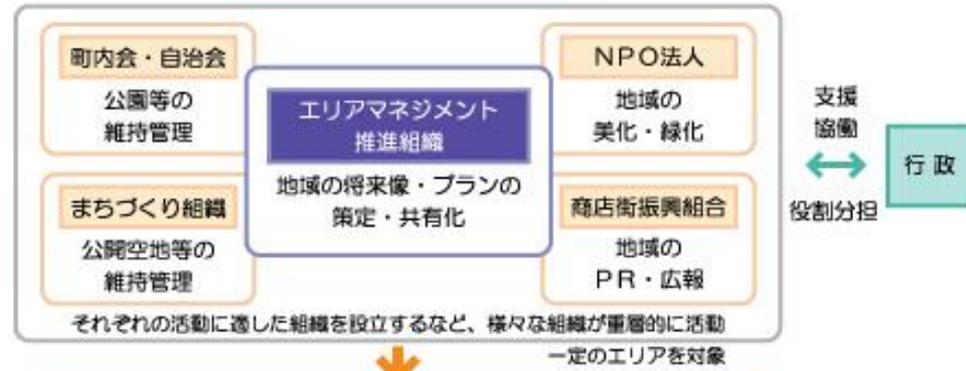


建築協定の運用等により緑豊かで美しい街並みを形成
 コモンシティ豊田HUL-1地区（大原町安野市）



ガイドラインによりオフィス街に店舗等を導入
 大手町・丸の内・有楽町地区（東京都千代田区）

エリアマネジメントのイメージ



価値ある地域の形成・活性化

新屋表町通り【秋田県秋田市】



地域が主体となった新屋表町通り活性化推進委員会を組織し、地域の活性化、賑わい・景観向上などのまちづくり活動に取り組んでいる。



- ・地域交流の場「街飲み」
- ・地域シンボル形成（鉄塔のライトアップ）
- ・湧水広場計画策定 等

アイランドシティ照葉のまち【福岡県福岡市】



住民と行政が分担して管理する街並み
 住民による環境美化活動
 公園、緑地、緑道等のある環境の良い住宅地を、公・民が連携して「育てていくこと」が開発の基本方針とされた。